

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



浸食谷をはさんで大きく育ってきた呉城郷のアンズ

Contents

写真展『中国黄土高原』東京で開催!	P 2
2003年夏の大同	P 3
地域で活動するGEN会員	P 4

2003.9

93

写真展『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』

いよいよ東京で開催！



2001年春から、京都、名古屋、大阪、広島、岡山のJR各駅で開催してきた写真展『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』。JRのバックアップと、GEN会員をはじめとするボランティアのご協力で、各地で好評のうちに終えることができました。

今回、それらの集大成ともいえる、東京駅での写真展を開催することになりました。実現にこぎつけるまでに、たくさんの方々のご助力をいただきました。橋本さんも新しい写真パネルを追加して張り切っています。

近くにお住まいの方、また、期間中東京においでになる方は、ぜひお立ち寄りください。また、ボランティアを

大募集します。詳しくは別記。

【写真展『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』撮影：橋本紘二】

日時：10月26日（日）～11月1日（土）10時～19時

場所：JR東京駅丸の内北口ドーム
入場無料

主催：緑の地球ネットワーク / (社) 国土緑化推進機構

協賛：イオン(株) / 王子製紙(株) / 積水化学工業(株) / 日本郵船(株) / 三菱地所(株) / (株)リコー

協力：東日本旅客鉄道(株)

後援：外務省 / 文部科学省 / 国土交通省 / 環境省 / 林野庁 / 中国大使館 / 日本経団連自然保護協議会（予定を含む）

* * * * *

【ボランティア大募集！】

1. 広報ボランティア

チラシ（A4）をおいてもらう、ポスター（A3）を貼ってもらう、そんな場所の心当たりがある方は、必要部数と送り先をお知らせください。

2. 会場ボランティア

仕事内容は、会場の保守、資料の配付と写真やGENの活動の説明。今回は販売はありません。ツアー経験者はもちろん、大同に行っていない方も歓迎です。早番（10時～14時30分）と遅番（14時30分～19時）の2つのシフトに分けて、それぞれ3～4人でカバーしたいと思います。交通費の実費（1日1,000円以内）を支給します。やってみようかな、という方、可能な日時をご連絡ください。

3. 設営・撤収ボランティア

10月25日の午後に設営し、11月1日の夜に撤収します。作業の大部分は業者がおこないますが、写真パネルの出し入れや設置など、軽作業を手伝ってもらえると助かります。終了時間は遅くなります。交通費の実費（1日1,000円以内）を支給します。

以上、ボランティア応募の連絡先はGEN事務所（TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182 e-mail : gintree@vc.kcom.ne.jp）まで。ご連絡をお待ちしています！

いまあぐできるGENへの協力

イラク戦争やSARSでツアーの中止が相次ぎ、GENの活動を新しい仲間にもひろげることがむずかしくなっています。活動をひろげるには、信頼できる人からの口コミが一番！みなさんのご協力をお願いいたします。

会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動を支えてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、入会や会報の購読などをすすめてください。

カササギの森にご参加ください！

1haの緑化費用5万円を一口として協力を募っているカササギの森へのご協力は、181ha分になりました。

7月の豪雨とヒョウで苗木がいたんだり、谷底の貯水槽が埋まったりして被害がでましたが、小さいながらも新しい貯水槽をつくるなど、復旧をすすめています。

緑化基金、運営カンパもむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんのお気持ちをわけていただくと嬉しいです。

ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

砂漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円（送料270円別途）です。

絵はがき『中国・黄土高原』をご利用ください

橋本紘二さんの写真で制作しました。『春』『夏』『秋・冬』『緑化』の4種類、それぞれカラー8枚組、1セット（8枚）300円（送料別）に値下げしました。

使用済みテレカを回収しています

使用済みテレカを換金して苗木代にあてています。現在、1枚でマツ苗1本分になります。対象は折れ、汚れのないテレカのみです。その他のカード、使用済み切手は集めていません。

もちろん未使用のテレカも大歓迎！

書き損じはがきを集めています

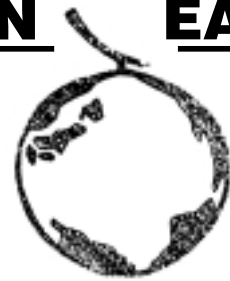
書き損じはがきを回収して、通信費にあてています。そのほか、古い未使用のはがき、切手なども歓迎です。

商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りいただくと嬉しいです。

2003年夏の大同

豊作、水害、深刻な水不足…



収穫後のアズの処理を手伝う呉城郷の子どもたち

9月にはいって大同は急に気温が下がり、ポプラの葉に少しずつ黄色みがでてきています。ことしの生育はまもなく止まります。

全体としてみると、ことしの樹木の生長は悪くはありませんでした。渾源県呉城郷のアズは一段と大きくなり、10aあたりの収入は1,500元にたっします。従来のアワ・キビ・ジャガイモにくらべ、5～10倍です。農家の人たちもホクホク顔。日本大使館主催のプレスエクスカージョンが8月上旬、私たちのプロジェクトで開催され、中国側11社、日本側3社の記者が訪れましたが、その成果にみな驚いていました。たくさんの記事になっています。

3～4月に雪や雨が多かったため、マツの生育も良好でした。2000年に植えた大同県采涼山のマツは、1年で25～40cmも伸び、70～80cmになりました。



采涼山のマツ。これからは目にみえて大きくなるだろう

た。ここはカササギの森の入り口ですから、訪れる人たちに強い印象を残します。

不幸なこともありました。カササギの森の一带が7月25日、強い雨とヒョウに襲われました。敷地の中央の谷では緑陰をつくっていたヤナギやヤナギハグミが流され、私たちが建設した貯水槽は跡形もなく土砂に埋まりました。いつもお世話になる聚楽村では、洪水で4人が亡くなったのです。

このヒョウは鶏卵大だったそうで、経済損失は1,700万円にもたっしました。自然災害は貧しい村を狙い撃ちします。

霊丘県の自然植物園は順調に緑が濃くなっています。山のうへではナラやトネリコが一段と大きくなりました。新しい作業道が完成したので、その生育ぶりを近くでみてもらうことができます。高低差が400メートルありますから、一汗かかないといけませんけど。

環境林センターの污水浄化施設は、すでに半年近く運転しました。効果を見るため、処理水で金魚を飼っていますが、みな元気に泳いでいます。基本設計にあたられた大阪産業大学の菅原正孝さんの一行が、いま現地に来ておられます。改善意見がでていますので、来年はさらによくでしょう。

応県で桑干河にかかる橋を渡るとき、びっくりしました。流れがないだけではありません。河川敷の全面でトウモロコシやヒマワリが栽培され、すっかり畑になっているのです。これほどの光景ははじめてみました。水問題がますます深刻になるなかで、あの污水浄化装置の意義も大きくなっています。

(9月5日早朝 大同にて 高見)



カササギの森の谷。上が02年、下が03年。中央部分の灌木や苗木が7月の洪水で流されてしまったが、9月に行ってみると草が生え、埋もれたヤナギやギョリュウからも芽が出ている

ご遺志をカササギの森に

ご協力に感謝

鳥取市の入江彰喜さんが4月に亡くなられ、長男の賢司さんから、香典の一部だといって、多額の寄付が寄せられました。彰喜さんは戦時中、山西省の鉄道で働いたことがあり、当時のことを甥の高見事務局長に語った直後の他界でした。寄付金はカササギの森の建設にあて、ご遺族のお気持ちをいかしたいと思います。



地域で活動するGEN会員

子どもたちといっしょに環境や貧困を考える

小中学校の総合学習などで、環境問題やボランティア活動がとりあげられることがふえています。GENの会員にも、「学校で話をするようになりました。資料をください」という方がときどきおられます。今回はそんななかから、奈良県でいろいろなボランティア活動に取り組む王蕙懿さん（03春のワーキングツアー参加）と、堺市でゲストティーチャーをつとめた石原務さん（01年春・夏、02年夏のワーキングツアー参加）に、体験をつづっていただきました。

熱心に聞いてくれた子どもたち

王 蕙 懿

春のワーキングツアーに参加された皆さん、お元気ですか？ 皆さんと一緒に過ごした6日間はとてもいい思い出になりました。皆さんと大同でお別れしたあと、私は1人で五台山へ巡礼の旅をし、また世界遺産に登録された平遙古城も訪れることができました。祖先のルーツ太原市にある「晉祠」と綿山の麓に建てられた「王家大院」をたどって参りました。

そして、4月10日から貯水されることとなった三峡ダムに水没する前の長江や三峡の姿、風景を見るため、重慶に飛んでいきました。3泊4日の長江下りの旅をやっと叶えました。

私が旅行していたあいだ、中国ではSARSの情報は封鎖され、まったく報道もされていなかったため、日本に帰ったとき大騒ぎになっていて、とても驚きました。びくびくしながら、2週間家にこもっていました。

5月に入ると、所属している国際交流とボランティアのグループ・虹の会の幹事に「6月の例会で10分間スピーチをしてほしい」と言われました。私は『SARSはなぜ中華圏で蔓延しているか』と『緑の地球ネットワーク』のこと、どちらにしようか悩みました。大淀町の小学校で中国の教育と子どもたちのことを紹介したときに「希望小学校と希望果樹園（小学校付属果樹園）」のことにふれたことがあったので、緑の地球ネットワークのことに決めました。

私は『緑の地球』の89、90号をもう一度じっくり読んで、大同の地図とA3に拡大したカラー写真を用意しました。例会では、GENの春のワーキングツアーに参加して体験したことを

簡単に会員の皆さんに話しました。例会がおわったとき、会員の1人に、「王さん、6月20日に桜井市の中学校で1年の生徒さんに今日の話をもう1度詳しく話してくれませんか？ 45分間で、テーマは『私とボランティアのことについて』、講師料はませんが、来てくれますか」と声をかけられました。私は即承諾しました。テーマも決めました。「GENの国際ボランティア・中国黄土高原の緑化活動について」です。

GENの活動の詳しいことはわからないし、資料も持っていません。GEN事務所の太田さんに頼んで資料を送ってもらい、ビデオも買いました。手元の地図を拡大コピーしたり、貼りあわせたりして大きなカラー地図を用意しました。

45分という時間では話は十分できないと覚悟しながら、地図3枚（中国・山西省・大同市）とビデオと手製のA3写真集1冊と太田さんが送ってくれた資料を持っていきました。1年の生徒を10クラスにわけて、それぞれの分野でボランティアをしている人が講師として自分がやっているボランティ

アのことを紹介します。

私は「日本に来てからなぜボランティアをするようになったか、きっかけと内容」を話してから、GENの活動を紹介しました。ビデオの観賞中もみんな熱心に画面に見入っていました。

観賞がおわったとき、すでに45分は過ぎていましたが、「時間は大丈夫ですか」と聞くと、先生は大丈夫ですと答えました。そこで続いて写真集1枚1枚を生徒に見せながら説明しました。話が終わろうとしたときには、休憩なしで100分間が過ぎていました。先生は生徒と一緒に熱心に聞いて、時間のことは言いませんでした。私は思う存分話しました。

先生が「王さんに何か質問……」と言い終わらないうちに、2年の生徒がもう手を挙げました。15分間、質問が途切れることはありませんでした。その中には2回も質問をした人もいます。とても驚きました。こんなに真剣に熱心に聞きながら、ノートをとったり質問したりされたのは、100回近い講演のなかで初めてのことです。最後に、まとめとして、子どもたちに「希望小学校の子どもたちと同じように、厳しい環境のなかでも希望を持って前向きに頑張してほしい……」と強くアピールしました。

ゲストティーチャーの体験から

石 原 務

昨年から大阪府堺市の小学校でゲストティーチャーをしています。

街やスーパーなどで小学生が「あっ！ 石原さんだ。石原さんこんにちわ」と挨拶してくれます。なかには何もいわず、にこっと笑顔をみせる子どももいます。転居した直後から長年単身赴任で疎遠だった地域に急に親しみ

が感じられるようになりました。

きっかけは、私の居住地小学校のゲストティーチャー募集に応募したことに始まります。応





募のテーマは「アフリカの動植物のVTR観賞」でした。早速、2週間後の月曜日朝8時30分から20分間全校生徒を対象にVTR映写が決定し、事前の打ち合わせで黄土高原の緑化ボランティアを話すとぜひ加えてほしいということになりました。

VTRはアフリカの動物とHIV遺児10分間、黄土高原小学生の植林作業5分間、計15分間です。大学の一般教養で私語に苦い経験をもつ私は、学級崩壊が問題となる今日の小学校1～6年生300人相手に覚悟をきめて臨みました。しかし、案ずるより産むは安し、チンパンジーの仕草のおかしさに爆笑がおこっただけで、静寂のうちにすべてが進行しました。6年生に質問時間が設けられましたが、寡黙で拍子抜けでした。が、後日送付の3年生以上の感想文にはしっかり意見が書き込まれていました。それは予期に反して、アフリカの動物よりも黄土高原の小学生の植林作業についての感銘と「自分たちも何かボランティア活動を」という焦燥感が多数をしめていたのです。

その後、6年生の総合学習で環境問題について2回VTR映写と解説をする機会がありました。論点は世界中でおきている環境破壊と自分たちの暮らしは無関係ではないということです。南米の熱帯雨林破壊は、日本を含む先進国の肉食中心の食生活を支えるための食肉大量生産が主要因である。アフリカの森林破壊は人口爆発もあるが、ODA返済のために、外貨獲得に有利なコーヒー・紅茶栽培が条件の良い土地を占有し、食糧生産のためには条件の悪い急斜面の森林まで焼き畑にしなければならぬ実態がある、これも主要援助国である日本が大きく関与している。アフリカや黄土高原の子どもの食費は、1日30円に満たない。牛肉など1度も食べたことがない。日本全体の残飯でアフリカの子どもの飢えが救える。皆さんはいかに無駄の多い生活をしているか日々の暮らしから1つひとつ書き出してみなさい、など。

しかし、そんなに貧しい生活を強いられていても、VTRで見たようにアフリカのHIV遺児も黄土高原の子どもも

目が輝き生き生きとしているではないか。彼らはノートがなく地面に字を書き、教科書がなく先生の話丸暗記し、青空教室で一息懸命勉強している。貧しいことは不幸か？

また、私のアフリカ旅行についてもHIV遺児施設では、同行者は子どもたちが作ったほとんど使いものにならない民芸品を各自100\$も200\$も買い、狩猟採取を禁じられたピグミー族のところでは飛行機持ち込み禁止の弓矢などの土産を買い、衣類やボールペン、その他生活用品を提供しており、単なる物見遊山ではない等です。

生徒はたいい「そんなに度々アフリカに行くお金がありますか。ボランティアのときには旅費をもらうのですか」という質問をします。「私は木っ端役人だったから貯金は少ない。ただ、けちに徹し不必要なことには一切お金を出さない。車も携帯電話も持たず、外食はほとんどしないし、バブル以前に購入したぼろマンションに住み粗食で我慢している。ボランティアではお金をもらえない」と答えます。

最近の感想文に「貧しいことが一番不幸と思っていたけど、アフリカや黄土高原の子どものVTRを見たり、石原さんの話を聞いて考えさせられるようになりました。たくさんものに囲まれ、美味しいものを腹一杯食べるだけが幸せでないことがわかったような

気がします」という主旨の記述が見られるようになりました。以前には「世界中の貧しい不幸な子どもたちを助ける仕事に就きたい」といつていたのですが、そして「大人になったら石原さんのような国際ボランティアとして活躍したい」といつのまにか私は、名誉ある国際ボランティアの称号を戴くことになりました。

ゲストティーチャーを通して、子どもたちの興味、関心が予想していたよりも近隣諸国や世界に向かっていて、今日的な思潮への共感が高いことも知りました。黄土高原の小学生やHIV遺児に感動し、イラク戦争最中の卒業式に誓いの言葉で「戦争絶対反対」と叫び、「世界中でボランティア活動ができるような大人になりたい」と結ぶなど、「医者になっていい生活をしたい」、「プロ野球の選手になって高級車に乗りたい」というのも聞かれましたが、偏狭な民族主義や排外主義をみることはありませんでした。

ゲストティーチャーの関与は、微々たるものですが児童に幾ばくかのインパクトを与えることは可能と思えました。

もう読みましたか？

『ぼくらの村にアンズが実った』

まわりの人に、「読んでみる、面白いぞ」とすすめてくなります。

先日『ぼくらの村...』図書館に購入していただきました。友人も買ってくださいました。貸し出し状況を見届けたいと思います。

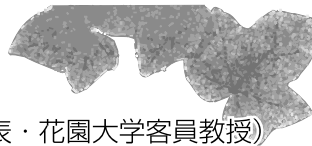
高見事務局長のメルマガ『黄土高原だより』をまとめた本、『ぼくらの村にアンズが実った』はおかげさまで好評をいただいています。まだご覧になっていない方は、ぜひご一読ください。地域や学校の図書館に、購入希望を出していただくのも歓迎です。

『ぼくらの村にアンズが実った - 中国・植林プロジェクトの10年』高見邦雄著 / 日本経済新聞社 / 1,600円 (税別)

お近くの書店でおもとめください。GEN事務所でも取りあつかっています (1,600円 + 送料290円) FAX、e-mailでお申し込みください。

メールマガジン『黄土高原だより』(“melma!”で発行)は、GENのウェブページから購読申込みができます (<http://member.nifty.ne.jp/gentree/>から、黄土高原だよりのページへ)

植物を育てる (24)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

ドングリ類の種子発芽

ドングリは俗称、殻斗果という。皿のような部分を殻斗という。シイノキは皿がなくて外皮に包まれているが、クリとブナを除くこの仲間をドングリと呼んでいる。日本に20種あまり分布するが、その発芽について調べたデータはほとんどない。そこで筆者の実験の結果を報告しよう。予備実験で、ドングリ類はカラカラに乾いてしまうと発芽しないことが解っていた。十分熟して落下した直後の種子を集めるのは意外に大変な仕事であった。

発芽床

実験の発芽床は、昔の人がやっていたように、箱に川砂をつめて1種100粒ずつ蒔いた。そして毎週1~2度水分の補給をした。いろいろな温度条件の場所に置いたが、自然条件での発芽の結果を図に示す。

発芽率とその経過

16種のドングリは、図のように3つの群にわかれて発芽した。落葉性のミズナラとコナラは発芽がもっとも早く、年内に発芽(正しくは発根)した(A群)。常緑性のカシとシイは年内には

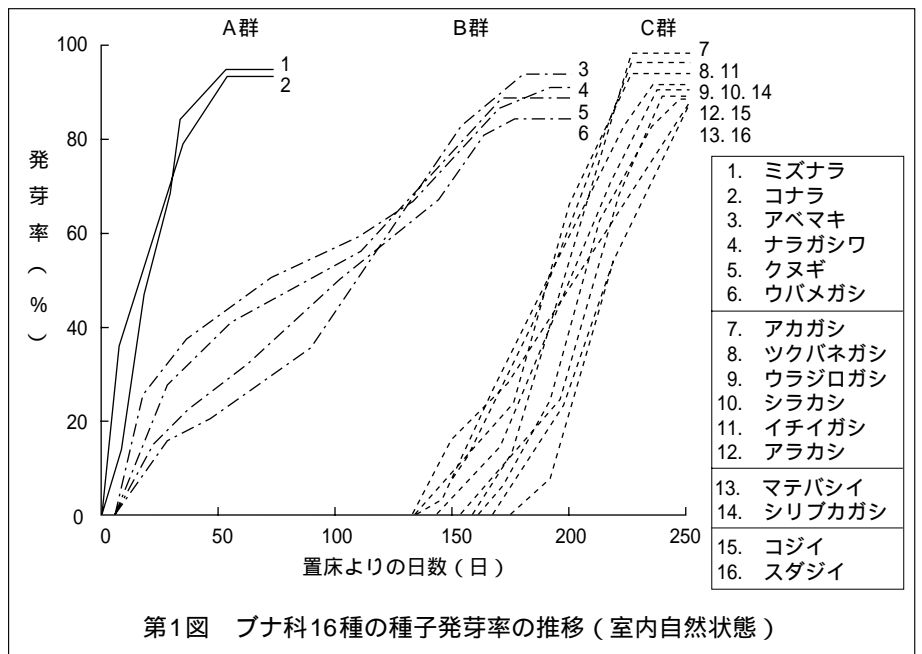
生えず、翌春いっせいに発芽(発根と発芽)した(C群)。その他の4種の落葉性種は、両者の中間で、年内から翌春にかけてダラダラと発芽(発根)した(B群)。

結果と考察

落葉性の種類は、ドングリが熟して落下したらすぐに発芽(根)をはじめ

るが、常緑性の種類は翌春暖かくなってからいっせいに、根と芽を伸ばした。ただ1種ウバメガシだけは常緑性であるが、落葉性種と似た発芽のパターンを示した。

ドングリ類の苗の育成には、成熟期にすばやく集めて水洗し、乾燥しないように砂に埋め、翌春、芽の出た小苗を取りだして苗畑に植えるのがもっとも実用的な方法であることがわかった。その後の調査で、拾ったドングリをビニール袋に入れて、冷蔵(5~6℃)するのもよい方法だとわかった。



企業の環境配慮への動き 黄土高原の緑化に協力

リストラや経費削減のなかでも、環境問題を避けて通れない問題としてとらえ、省エネルギー、リサイクル、グリーン購入などに取り組む企業が増えています。そこからさらに1歩ふみだして、より積極的に環境問題に取り組もうという企業も、少しずつですが確実に出てきているようです。

今回、松下電工(株)照明分社がおこなう“緑いっぱい 省エネスペックインキャンペーン”は、一般の消費者に直接関係する商品ではありませんが、環境配慮型の照明器具の導入に応じて、一定の割合でGENを通じて黄土高原

の植林に協力するというもの。すでに、“カササギの森”のなかに、植林好適地を見つけてあります。

広大な黄土高原に、このようなご協力で少しずつ緑を取り戻していくことができれば嬉しいです。

GREENなんでも勉強会 土と水をきれいにする?

土壌浄化による汚水処理

土壌微生物による汚水処理は、別に新しいアイデアではありません。でも従来は、大きな面積が必要とされ、実用化がむずかしかったのです。ところが、GENが大同の環境林センターにつくった施設は、25mプール程度とい

う大きなながら、1日に250tの汚水を処理することができます。どんな仕組みになっているのでしょうか?

基本設計をてがけた大阪産業大学の菅原先生には、9月はじめにも環境林センターを訪問して、土壌浄化による汚水処理のさらなる可能性を検討していただいています。最新情報をお楽しみに!

日時: 9月25日(木) 18時30分~20時

場所: 大阪産業大学梅田サテライト教室(大阪駅前第4ビル22階)

講師: 菅原正孝さん(大阪産業大学人間環境学部学部長)

参加費: 700円(資料代ふくむ)

問合せ・申込み: GEN事務所まで

黄土高原史話〈15〉

原点は心の中で懐くもの

谷口 義介 (摂南大学教授)

十数年前、詩人・評論家の谷川雁氏と一夕、不知火町の料理旅館で飲んだおり、氏の著作『原点が存在する』が話題に。そもそも「原点」という言葉を書名で使ったのは氏が最初で、以後「何々の原点」という言い方が広まった由。『二十歳の原点』なるベストセラーもありましたね。

ワタクシ的なことですが、中国史の原点といえば、黄土高原のほぼ真ん中、涇水(けいすい)の中流、陝西省北部の彬(ひん)県、以前は邠(ひん)と書かれました。もっと古くは豳(ひん)。

『史記』周本紀によると、周族が興ったのがこの地で、のち岐山の麓に遷り、さらに渭水岸まで南下して豊邑・鎬京を造営、前11世紀半ば武王のとき殷(商)の紂王を伐って西周王朝を樹立。だから原点、というわけではありません。

前9世紀ごろ西周時代の後期、『詩経』豳風(ひんふう)七月の詩に、この地のことが歌われています。詩は

7章構成、1章ごとに11句、すべて7句に及び長編。

「三の日(旧暦1月)ゆきて耜(春耕)し、

四の日趾(あし)を挙ぐ(足踏み作業をする)。(第一章)

「六月すなわち績(つむ)ぐ。

すなわち玄(くろ)く、すなわち黄なり。

わが朱はなはだ陽(あざや)か、公子の裳となさん」(第四章)

悠久な蒼い空の下、野には耕やす農夫の影あり、家には紡ぐ娘たちあり。その他の詩句もあわせ、一年にわたる農村の生活を活写して生彩に富むもの、『詩経』三百篇中に比類なし。フランスの碩学マルセル・グラナーは、ヘシオドスの叙事詩『仕事と日々』になぞらえています。

七月篇で歌われた豳の村は、そのまま中国の古代村落の典型。中国史の原点、と考える所以(ゆえん)です。

清代中期の歴史家・崔東壁いわく。「七月を読むに、桃源の中に入るが如



し。衣冠樸古、天真爛漫にして、太古に熙々(なごやか)たるかな」

1996年の夏、宿願の豳の地へ。『詩経』によると、山々は豊かな森林におおわれ、山腹からの清流が泉をつくって、その縁辺には肥沃な耕地が広がっていたはずですが.....。

わずかに彬県大仏の裏山に鬱蒼たる樹林(写真)。このシリーズの<12>で書いた黄陵県の黄帝陵は、ここから東北へ100キロほど。「黄色い大海に浮かぶ緑の巨艦」と形容しましたが、それと同じく人為的に手厚く保護されたからでしょう、古代以来の景観をほんの少しだけ窺わせてくれます。

GEN自然と親しむ会 武庫川渓谷でバーベQ

雨で流れた5月の計画の復活です。さわやかな秋のハイキングを楽しんだあと、河原でバーベQをつつきましょ。お気に入りの食材をお持ちください。パームクーヘンづくりにも挑戦する予定です。

ハイキングをもっと楽しみたい方は、帰路「生瀬」駅まで廃線跡を歩くことができますが、その場合は長いトンネルがあるので懐中電灯が必要です。

日時：10月19日(日)10時~15時

場所：「桜の園」周辺

集合：JR福知山線「武田尾」駅前に10時 雨天中止

持ちもの：主食、飲みもの、バーベQの材料、皿などの食器。数物。歩きやすい服装、靴でご参加ください。参加費(保険料、炭代等ふくむ)：500円

問合せ・申込み：10月15日までにGEN事務所まで

関東ランチから 例会のお知らせ

【9月度】

「黄土の民はいま！」

日時：9月27日(土)15時~18時

場所：立教大学池袋キャンパス8号館2階8201教室

講師：池谷薫さん(映画監督)

映画「延安の娘」東京公開に先がけ

て、映画監督、池谷薫さんをお招きします。作品のひとつ、「黄土の民はいま」をビデオ上映し、黄土高原で取材することの意義や困難をうかがいます。【11月度】

「中国河北省豊寧満族自治州における沙漠緑化活動」

日時：11月29日(土)15時~

場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室

講師：國友淳子さん(トヨタ自動車(株)バイオ緑化事業部植林技術開発G)・地球緑化センターからもお招きする予定です。

問合せ・申込みは上田信(e-mail: ueda@rikkyo.ac.jpまたはFAX: 03-3985-4790)まで。

10月の予定は上記までお問い合わせください。



国際協力フェスティバル 2003

国際協力にたずさわる政府機関、NGO、国際機関等約200団体による活動紹介。ストリートパフォーマンスショー、ライブなどさまざまなイベントも予定されています。

日時：10月4日（土）5日（日）10時～17時

場所：日比谷公園（地下鉄「日比谷」駅 / 「内幸町」駅 / 「霞ヶ関」駅、JR・地下鉄「有楽町」駅）

入場無料

問合せ：国際協力フェスティバル2003実行委員会事務局（株）ジェイコム
TEL. 03-5565-6385 FAX. 03-3546-1165 e-mail : festival@jtbcom.co.jp
URL <http://festival2003.visitors.jp/>

共催：外務省、国際協力事業団、国際協力銀行、（特活）国際協力NGOセンター

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

中国少数民族地域の子どもたちへの 第7回教育支援コンサート

日中の二胡と抒情歌

恒例となりました関西日中交流懇談会の教育支援コンサート、今年は二胡と歌です。収益は湖南省、寧夏回族自治区での教育支援活動につかわれます。秋の1日、音楽をどうぞ。

日時：10月18日（土）14時から（開場13時30分）

場所：クレオ大阪西（JR環状線・阪神西大阪線「西九条」駅徒歩3分、大阪市此花区西九条6-1-20 TEL. 06-6460-7800）

協力券：2,500円（当日3,000円。小・中・高生、留学生、障害者1,500円）

出演：宋茜（ソプラノ歌手）張連生（二胡奏者）毛利美紀（ピアノ伴奏）

主催・協力券取扱：関西日中交流懇

談会（兵庫県宝塚市山本東1-16-6
TEL/FAX 0797-88-2240 e-mail :
kansainc@ch.mbn.or.jp）

ワン・ワールド フェスティバル

例年どおり、GENもNGO活動紹介ブースに出展する予定です。

日時：11月2日（日）3日（月・祝）10時～17時

場所：大阪国際交流センター（地下鉄「谷町9丁目」駅、近鉄「上本町」駅）

問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会（〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 2階 関西国際交流団体協議会 TEL. 06-4395-1124 FAX. 06-4395-1125 e-mail : kna@pianpo.com URL <http://www.interpeople.or.jp>）

GENのブースを手伝ってくれるボランティアスタッフを募集します！ GEN事務所までご連絡を。